

■ テーマ名

若者の生活困窮予防

■ キーワード

生活困窮、若者、働き方、リスク、予防

■ 研究の概要

十数年にわたり、生活困窮に陥った方々に対応された相談記録をデータ化させていただいた上、分析を続けてきました。生活困窮に陥った方々の傾向を把握し、それに基づく生活困窮を予防する視点を様々な場面で発信してまいりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の中において影響を受けた方々の状況にも特徴がみえました。年齢、性別により働き方の違いが大きく生活へ影響していることがわかりました。ライフステージを考え、どのようなことに気を付ける必要があるか、次第に明らかになってきています。

現在、大学で退学予防、退学しなければならない学生の相談に携わっていることもあり、若い時からの働き方についても研究を深めているところです。

これらの研究に当たっては、科研基盤研究（C）2回、（B）1回（現在進行中）の連続支援をいただいで進めています。

■ 他の研究／技術との相違点

生活困窮に陥った方々の相談事例をデータ化、統計的分析を通して、代表的なリスクを性・年齢・世帯種類等により明らかにし、予防への視点を導いている。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

退学や退職による若者の生活への影響は大きく、予防の視点を明確にして対応していく必要がある。労働力不足少子化問題との関連も大きい。

- ・生活困窮を防ぐためのサービス開発
- ・若者や保護者に向けた教育啓発
- ・産官学連携による新たな働き方構築

■ 関連業績

<出版物>

- ・「第4章 多様化する社会ニーズへの対応」分担執筆（稲葉・西垣・川本）、佐藤・北村・馬奈木編『SDGs時代のESDと社会的レジリエンス』筑波書房、2020年
- ・「第28回学術講演会報告 ワークショップ③新型コロナによる社会的な分断をどう捉えるか？孤立対策と新しい社会に向けたコミュニティ形成についての意見交換」（勝部・首藤・筋原・中野・西垣・弘本）、都市住宅学113号、2021年
- ・「特集：生活困窮者への支援とアドバイス パート1：今、日本の貧困の実態はどうなっているか」（阿部・西垣）Journal of Financial Planning 2021.2
- ・「学生の未来センターの取り組み」大学行政管理学会誌 No.26、2022年
- ・「第7章 高齢者とSDGs」分担執筆（稲葉・西垣）野田編『SDGsを問い直すーポスト／ウィズ・コロナと人間の安全保障』法律文化社、2023年

<講演>

- ・「学生の未来センターの取り組み」大学行政管理学会 2021年度 基調講演
- ・「孤立させない地域づくり～誰一人も取り残さないために～」神戸市社会福祉協議会 区社協役員協議会、2021年

■ 研究者から一言

社会のあり様が大きく変化の中で、誰もいつ生活困窮に陥るか予測できない状況です。だからこそ、予防に向けた環境づくりは必要です。研究を通して明らかになったことをできるだけ多くの方に伝えたいと思います。